

Olympic
Movement

<平成27年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

大館市立比内中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイムなどを設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像などを使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」などについて話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年9月1日 (火)
- 場 所 : 大館市立比内中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (34名)、2年2組 (34名)
- オリンピック : 田中 光 先生 (体操/体操競技)

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限・3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・簡単な自己紹介と、前転、後方転回 (バク転) 等のパフォーマンス披露。
- ・オリンピックバリューを意識しながら授業を進めていくことを確認。

2. 準備体操 等



- ・主運動で実施するリズム体操の9種類のステップを一つずつ確認。
- ・体操が出来る大きさに広がり、音楽に合わせて、手首、足首、首の廻旋、アキレス腱等を伸ばしながら体をほぐす。



3. 主運動 等



- ① 音楽（曲：Dancing Life）に合わせて、グループごとに授業のはじめに確認した9種類のステップを用いて繰り返し踊る。
- ② 発表 3グループ合同でそれぞれが完成したダンスを発表。

4. まとめ 等



- ・授業の目的である、オリンピックバリューを感じながら出来たかを確認。
- ・皆で協力することや、出来なくても最後まで諦めずにやり切ることが大切であることを伝えた。



■授業のながれ：座学の時間（2時限・4時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



・授業に入る前に、今朝起きてからの「やる気度数」を自己評価させ、朝の活気が1日に影響するとともに、ホルモンバランスの重要性も紹介。
 ・その後、「オリンピックに対するイメージ」を生徒に発問。「メダル」、「勝敗」という考え方が多い中、「本当はそれだけではない」と伝える。

2. オリンピックの価値を伝える 等



・近代オリンピックの復活について触れ、3つのオリンピックバリューについて、自信の経験をもとに伝える。

- ①エクセレンス＝「すばらC」 …「やらされている」ではなく自分の意思で「やる＝学ぶ姿勢」
- ②フレンドシップ＝「やさC」 …不安な時期を支えてくれた仲間
- ③リスペクト＝「うれC」 …経済的にも精神的にも支えてもらった、母親への感謝の気持ち



3. グループ（個人）ワーク等



発問：オリンピックバリューを踏まえた上で自分の目標を考える。

発表：自分の目標について、来年の大会で悔いの残らない試合をしたい、物事に積極的に取り組んでいきたい、部活で全国大会に出場したい。

4. まとめ等



・オリンピックは競い合って勝つ事だけではなく、3つの価値を掲げている事を振り返りながら、チャレンジ精神を忘れずに頑張って成長し、何事にも積極的に取り組むことの大切さを伝えた。

・2020年東京大会にもいろんな形でチャレンジして欲しいと伝え、授業を終了。



■ 集合写真

【2年1組】



【2年2組】





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

